

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	第２回近江八幡市家庭教育推進協議会		
開催日時	令和６年２月２１日（水）１０：００～１１：３０		
開催場所	近江八幡市役所　南別館　水道事業所　会議室Ａ・Ｂ		
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	＜委員＞ ◎岡田委員 ○山岡委員 深尾委員 中江委員 永峰委員 有森委員 杉浦委員 吉永委員 岡本委員 富岡委員 ＜事務局＞ 富江生涯学習課長 温井指導主事 勝山指導主事		
次回開催予定日	令和６年　７月下旬		
問い合わせ先	所属名：近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課 担当者名：勝山　正徳 電話番号：０７４８－３６５５３３ E-mail：045000@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録 ・ 要約	要約した理由	発言内容が整理され、記録として残すのに適しているため
事務局 課長 会長 事務局 委員 事務局 事務局 副会長	１　開会 ２　生涯学習課長あいさつ ３　会長あいさつ ４　取組報告・説明 ・令和５年度近江八幡市家庭教育支援基盤構築事業について【報告】 ・令和６年度近江八幡市家庭教育支援基盤構築事業について【説明】 ５　意見交流（協議） ６　諸連絡 ７　閉会 副会長あいさつ		

課長	<p><生涯学習課長あいさつ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨今、親子関係のもつれや虐待等、親の精神的なゆとりを持っていないことなどから生じる家庭内の問題が悲惨な事件となり報道されている。本市では家庭の孤立を防ぎ、良好な親子関係を構築するために家庭教育支援基盤構築事業に取り組んでいる。1月25日には県主催の家庭教育支援実践交流会が男女共同参画センターで行われ、武佐小学校・家庭教育支援員さんより、武佐小学校の家庭教育支援チームの取組について発表いただいた。その後の交流会の中で、武佐小学校の先進的な取組について、他市町からの出席者から、たいへん好評いただいた。どうすれば武佐小学校の家庭教育支援チームのようにできるのか、という質問もいただいた。本市では令和5年度、家庭教育支援連絡会を開催することによって、支援員のエンパワーメントを行うこと、子育て世代の保護者同士のつながりや、子育ての悩みや不安を話せる、相談できる居場所とすることに特に力を入れて取り組んできた。この後、担当者より今年度の取組について説明させていただく。委員の皆様には、それぞれの立場で、今年度の取組を踏まえ、いろいろと意見を賜りたい。
会長	<p><会長あいさつ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回ということで、またそれぞれの思いもあるかと思うので、忌憚ない意見を聞かせていただきたい。それにより、この協議会が一層意味のあるものになるようお願いしたい。
事務局	<p><取組報告・説明></p> <div data-bbox="504 1379 1350 1464" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①令和5年度近江八幡市家庭教育支援基盤構築事業について</p> <div data-bbox="1212 1429 1334 1464" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">【報告】</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本市における家庭教育支援の取組について 家庭教育を取り巻く現状として、父母の就労機会の増加や核家族化、地域コミュニティの希薄さ等が挙げられ、その影響で家庭環境は非常に大きく変化している。それにより、家庭での親子で少し時間の減少に拍車をかけている。また、学校では不登校や行き渋り等の増加が著しく、保護者は子育てに関して、しんどさを抱えていることがわかる。このような状況の中で、保護者の悩みや不安に寄り添うこと、家庭において「悩みを一人でかかえない」ことをテーマに、子育てに前向きになれることを本事業の狙いとして進めてきた。 ・ 家庭教育支援で目指す姿として、課題解決のために保護者支援の一助となるよう、子育てサロンや学校行事等を通じて、保護者同士や

家庭教育支援が顔見知りになること、少しでも話せる等のつながりの場を持つことが挙げられる。

- ・本年度の活動として、市内12小学校で家庭教育支援チームを設置し、活動している。桐原小学校での家庭教育支援員2名を含む13名の方が家庭教育支援員として活動している。困り感を抱える家庭に関するケース会議、そして保護者支援活動として各学校での家庭教育支援員を中心とした子育てサロン、登校支援や子ども・保護者を含めた地域での居場所づくりに活用いただいている。
- ・市主催の子育てサロンは5回実施し、実践交流会を各学期に1回行った。市子育てサロンの様子については、後ほどパワーポイント資料にて紹介させていただく。
- ・家庭教育推進協議会では、7月の第1回には家庭教育支援員の活動と連携について、そして困り感を抱える保護者への繋がりのある支援体制について協議いただいた。本日は次年度へ向けた家庭教育支援について、意見を賜りたい。
- ・訪問型家庭教育支援では、地域の施設を使った学習会や親子で楽しめるイベントの企画など子どもの居場所づくり、不登校や行き渋り等で困り感を抱える保護者宅への家庭訪問、児童の登校支援を行った。
- ・本年度の成果として、アドバイザーを活用した家庭教育支援員による学校での子育てサロンの実施、また家庭教育支援員連絡会にて、各校の取組の情報共有やスキルアップに繋がる事例検討会を行うことができた。
- ・今後の課題として、家庭教育支援がめざす方向性を、学校管理職、教職員への周知・理解が改めて必要であること、支援を要する保護者と学校のニーズにこたえられるよう、家庭教育支援のエンパワメントを行うとともに、事務局と学校とが連携を密にすることが挙げられる。
- ・親同士のコミュニティや繋がりから、子育てへの安心感を促す家庭教育支援を目指すための活動の具体的内容としては、各校の家庭教育支援員に訪問型家庭支援の実践等いろいろな形でアプローチをしていただいた。併せて地域人材の養成として、次世代の家庭教育支援員養成に向けて、学校を通して働きかけてもらっている方もいる。学習講座、行事の実施等では、子育てについて気軽に話せる機会をコーディネートし、外部から講師を招いてフラワーアレンジメントや料理など、楽しい活動を取り入れたサロンを実施した。
- ・連絡会議やケース会議の設置・運営等に関して、家庭での困難さを

抱える中で、より深刻なケースに関しては訪問教育相談員やS S W、福祉部局といった関係者も含め、ケース検討会へとつなげた。

また、チーム会議において地域の方を含めメンバーに入れるなど、民生委員とも連携し、児童の家庭状況等の把握と見守りネットワークづくりに努めた。

- ・取組の実施にあたっての工夫は、子育てサロンや本課の他の事業とタイアップして、親子で過ごす時間の確保と保護者同士で子育ての悩みを話せる場の提供を通して保護者支援に取り組んだ。

- ・事業の成果については、テーマや参加対象の保護者を焦点化する等の工夫をして、子育てに関する不安や悩みについて話せる場の提供を行うことで、学校や保護者のニーズにそった取組が行えた。課題について、教職員への共通理解を図ること、学校管理職や教育相談担当者が支援員活用という面で積極的に関わる必要がある。訪問型家庭教育支援活動（アウトリーチ型家庭教育支援）の実施を各校で今より充実させることを挙げた。

- ・市子育てサロンについて

1 回目は保護者のメンタルヘルスをテーマに、少しギアチェンジした子育てについて、ワークショップや講演等を行っていただいた。家庭教育支援員にも協力を募り、託児を設け対応にあたっていた。2 回目は本課中央公民館講座である親子クッキング教室とタイアップして、保護者同士が和室でリラックスして話せる場を提供した。児童へは絵本の読み聞かせを行い、親子で過ごす時間をとれてよかったという感想が多く見られた。3 回目と予定している5 回目は、不登校や行き渋りで悩む保護者を対象に実施した。市内スクールソーシャルワーカーを講師として招き、参加した保護者から同じ悩みを抱える者同士話せる場があってよかったと声をいただいた。4 回目は近江八幡市教育委員を講師に招き、子どもの愛着形成や小学生になる児童含め、これからの子育てについて講演を実施した。笑顔と元気をキーワードに、子育てに前向きになれるような会となった。

- ・家庭教育支援員連絡会について

今年度6 回実施した。自己紹介・事業説明から始まり、各校での活動報告を行い、情報交換ができるようにした。またアドバイザーからの助言もいただき、日々の家庭教育支援活動における励ましや共感などエンパワーメントを行ってきた。また、スキルアップを目的に事例検討会を行い、家庭教育支援を行う中で支援のポイントやキーパーソンなど必要な情報に関して、家庭教育支援員から意見を

事務局	<p>していただいた。今後もこのような機会を大切にしていきたい。</p> <div data-bbox="507 327 1276 367">令和6年度近江八幡市家庭教育支援基盤構築事業について</div> <div data-bbox="1214 374 1335 412">【説明】</div> <p><事業の概要></p> <p>本事業の柱は保護者支援であり、学校管理職への周知とともに学校を連携した活動、保護者へのアプローチを含めたアウトリーチ型家庭教育支援を進めていく。令和6年度に関しては断定できないが、市での予算配分があり、国・県からの補助金を含めるとほぼ令和5年度と変わらない活動ができるのではないかと考えている。その結果、家庭教育支援員に週2、3時間は活動してもらえる見込みである。令和5年度は、総合計1526時間となり、令和4年度から大幅に家庭教育支援員の活動時間を確保することができた。支援の形は学校・保護者や子どもの実態に応じて様々であり、ケースによって直接的な支援(家庭訪問や子育てサロン等で顔見知りになる、つながる)、円環的な支援(登校支援、朝の登校の見守り等)など、状況に応じて臨機応変になってくる。チーム会議も既に学校の方でも十分に開いているところもあるが、深刻なケース等も今後出てくると考えた時にチーム関係者の力を一つにしながら進めてほしいと考えている。</p> <p><子育てサロンについて></p> <p>令和6年度も5回の開催を予定している。保護者のニーズを踏まえた子育てサロンとなるよう、必要な居場所となるよう大事に進めていきたい。また子育てサロンと併せて、家読(うちどく)ともタイアップしながら、親子で過ごす時間の創出を考えていく。今年度、子育てサロンにおいて、ブックリストを作成し講師おすすめの本・絵本等を紹介した。また、講演や交流を通して本に触れる機会も合わせて持てるようにしたい。</p> <p>各学校での子育てサロンについて、学校の実態に応じてテーマを工夫し、テーマを考えてもらう際の一覧表を作成し参考にさせていただく。</p> <p><家庭教育支援員のアフターフォロー体制について></p> <p>来年度も連絡会を6回実施する。活動報告の中で様々な取組や支援のアプローチなど、支援員相互に気付きがあるようにすること、そして日々の支援活動の中で苦労していること等を交流し、共感することアドバイザー助言をとおしてエンパワーメントに繋げていく。また、事例検討会や活動報告をとおして、実際の支援について協議してもら</p>
-----	--

	<p>うなど、スキルアップの実施も考えていく。</p> <p>県生涯学習課主催の研修会旅費についても確保できる予定となっており、積極的な参加の方を促していく。</p> <p>事業に関して学校管理職や教職員へ再度周知し、活動希望時間を確認していく。家庭教育支援員が円滑に活動できるように、事業の理解・推進を図りたい。</p>
会長	<p>事務局の方からの報告に関して、何か質問等あればどうぞ。</p> <p>令和5年度の取組に関しても、何か意見等はあるか。</p>
委員	<p>訪問教育相談員の研修に関してどのようにしていこうか検討している。家庭教育支援員のエンパワーメントについて、どのようなことをされるのか、決まっていることがあれば教えていただきたい。</p>
事務局	<p>・日々の活動に対しての共感</p> <p>我々が見えていないところでの活動や保護者へのアプローチ等に関して認めること、苦勞している中で思いを出してもらい、同じ思いの方の意見を聞くことで、エンパワーメントに繋がるようにしている。また、アドバイザーからの意見や助言も併せて家庭教育支援員の励ましになるように、今後もエンパワーメントを行う予定。</p> <p>連絡会に来ることで気持ちがほっこりできることも必要と考えている。</p>
会長	<p>他に何か聞いてみたいと思うことがあれば、どうぞ。</p>
副会長	<p>子育てサロンに関して何人いらっしゃるか人数のことはあるものの、保護者の方々が来られるときに来てもらえたらいいなと思う。複数回していると、楽しみにしている方や、就労等で都合が合わない方もおられると思うが、今回子育てサロンを複数回参加された方はおられるか。</p>
事務局	<p>3月5日（火）実施予定の不登校や行き渋りにテーマを絞った2回目の子育てサロンでは、1回目（11月実施）と同じ保護者が来られるのではないかと考えている。複数回サロンに参加された方は定かではないが、数人おられると思う。</p>
会長	<p>他はいかがか。</p>

委員	<p>父母の就労等でこども園や保育所では行事をしても集まりにくい状況はあると思うが、第4回の子育てサロンについて、新1年生を対象とした参加者はどれくらいあったか。</p>
事務局	<p>第4回の子育てサロンは21名の応募があった。当日、インフルエンザ等何かの理由で欠席された方がおられ、最終16名（応募の際に子どもの学年を確認していないため、新1年生の保護者も含む参加者の総数）だった。結構たくさんの方に来ていただき、申込の最終直前で申込人数がぐっと増えた傾向があった。</p>
会長	<p>ほかに聞いてみたいことあったら、お願いしたい。</p>
課長	<p>今年度は、令和4年度よりも市が家庭教育支援員さんの活動における配当時間をかなり増やした。そのことによってどう変わっていったのかというような効果も含めて、今後求められるところがあると思う。家庭教育支援員の活動時間数が増えたことでよかった点についてお聞きしたい。</p>
委員	<p>今年度は活動時間が増えたと担当の先生から伺った。そこで子ども食堂での家庭教育支援の活動時間に活用することとした。スエバあちゃんの居場所づくりや放課後子ども教室で、少ない時は私一人で多い時は5、6人の子どもたちが来てくれて対応した。今までは助けてもらえる人がなくて一人だったのが、複数手伝ってもらえる人が増えた。週2回実施しているが、子どもたちは喜んでしてくれる。月曜日はコミュニティセンターや子どもセンター、子どもセンターは閉まっていて、子どもたちが集まる憩いの場所がない。そんな時、出会った子どもから「おばちゃんのお家ってどんなお家？」と聞いてきた。おそらく家に行きたい、入りたいという気持ちがあったと思う。いろいろ話をしていくと、その子はおそらく自分は留守番で、両親は下の兄弟を連れていって買い物に出かけているという。友だちの家へ行っても誰もいない。いろいろ私のことを聞いてくることから、子どもたちのために、スエバあちゃんを開ければよかったと思う。近隣施設が閉まっている日曜・月曜でも開けてあげたいと思う。</p> <p>学校では「家庭で話をきいてあげてほしい」「勉強を見てあげてほしい」とよく言うが、それができない家庭も実際にある。そういった子どもたちを取りこぼさず救いたいし、活動時間を増やしてもらえたことは</p>

	<p>感謝している。アウトリーチ型家庭教育支援として個人的に家庭訪問し、声を掛けに行こうともしたが、このことを先生に話をしたら、一緒に行きますとのことで一緒に訪問する予定。学校と一緒に行くことが大事だと感じた。また、保護者に市主催の子育てサロンについての情報も今後伝えていきたい。</p>
会長	<p>上の子を置いて、下の子と買い物に出かけた保護者の行動が気になる。</p>
委員	<p>一人で自転車に乗って遊んでおり、危ないので心配した。「気を付けてね」というと、「うん」と頷いていた。コロナ禍での配食弁当の際に顔見知りになった。上にも下にも兄弟がいる。保護者には、「また子どものことで困ったら訪問させてもらうね。」と伝えた。学校の先生も関係性があるようなので、次回、学校の先生と一緒に家庭訪問を検討している。</p>
会長	<p>その子にとって、話せてよかったと思う。周りが「この子を置いていかないで連れて行ってあげてね。」と伝えるといいかもしれない。長年の家庭教育支援員としての関わりがあつてこそだと思う。これからもよろしく願いたい。</p> <p>各所属の方々から、不登校に関する情報があれば願いたい。</p>
委員	<p>今年度は、にこまる訪問によりアウトリーチで訪問している子が8名いる。自宅から出られない子の利用だけではなく、中学3年生など進路を意識してルームで支援しているケースもある。</p> <p>にこまるルーム利用は14名。学校での放課後登校と併用している子もいる。朝から登校できる日もあるがちょっと息抜きに来ている子や、明日は学校に行けそうだから行ってみると話す子もいて、成長を感じている。先日クッキーづくりをした。中学生の発案だが自分たちで材料を調べてレシピを作成した。子ども同士での関わりが多く、小学生に教える姿も見られた。昨年までは1対1の関わりが多かった子も、力をつけてきており、頼もしい姿があった。子どもたちの変化に合わせて寄り添いばかりではなくちょっと挑戦させてみたり、子どもたちの力をつけていくことを考えてみたりして見守り、調整を行っている。相談員からの報告だが、最近、お母さんたちの中で今、子どものことをお話しになりながらも、自分の悩みや生育歴のことも含めて聞いてほしい思いで、たくさん話して帰られる方も増えている傾向にある。先程の話にもあったが、親同士の繋がりや話を聴いてもらえる人が少ないのか、親同士のコミュニティは希薄になってきているように感じ</p>

会長	<p>る。</p> <p>子どもたちが生き生きしている様子が見えて、大変素晴らしいなと思う。学校に来ている人を変えることよりも、学校に行きにくい子にとって前向きに考えられるシステム、活動したことに対して認める、結果を出してまたやる気を出すなど、人間形成の上で好ましいと思う。</p> <p>また、親が自分の悩みや不安を吐き出せるところがない、実は親がしんどくて聞いてほしいなど、子どものことは心配だが、私の話をきいてほしいという保護者が多くなってきた。やはり発散させることで、子どもへ目の向け方が変わる。自分がしんどい時に、子どもに目が行かず、ついつい怒ってしまう。思わしくない状況で子に避難する親が非常に多くなっている。親自身に相談事があり、聞いてもらうことで心開くと我が子を見る目が大いに変わる。</p> <p>申し訳ないけど、そういう役割（親の話を聞く役）も果たしていただけるのはありがたいかなと思う。</p> <p>他の親も、子どもの「にこまるルーム」利用に対して出入りする自由があってもよいのかもしれない。支援員にもう任せっきりで預かってもらうだけでなく、親も学校は行けないけれど、にこまるルームには行けることで、親が聞いてきたときには親の話も聞いてあげてほしいと思う。このことによって子どもも喜ぶだろうし、親子関係もそこで生まれることもある。子どもの年齢が高くなると、親の原動力を拒絶してしまう人が増える傾向がある。しかし親子で行って、親が支援員と話している、その後にここにきて帰ってきたら、その親の変化に子どもは喜ぶ。</p> <p>ちょっとした親の受け皿の部分もあってほしいなと感じた。</p> <p>幼稚園でも少しずつ出てきている行き渋りに対してはどうか。感じる場所があればお願いしたい。</p>
委員	<p>子どもは行きたいのだけれど、親が起きられない、というケースがある。園としては連絡して確認し、来てない子の状況を把握する。携帯電話で母がつながらなければ父、祖父母等と就学前は、大人とのかかわりがとても重要である。電話や家庭訪問などをして、来ないという状況を作らないようにしている。本当に保護者の受け皿が必要であると感じる。給食も食べてほしいので、とにかく給食を食べにおいでと伝えている。家読に関して、園のほうでも絵本の大事さを発信しており、保護者も理解しているが、なかなか読み聞かせてもらえない現状もある。そこで、小さいころに慣れ親しんだ絵本を通信に載せること</p>

	<p>で、つながりができてきた。教師との信頼関係は大事であり、その上で横のつながりを作っていくことが大事。行事を入れると、休みは取ろうと思えば取れるが、親の中での子どもに対しての優先順位が違っていると感じる。子どもは登園させるも、平日休みを取ってリフレッシュするなど工夫して、土日の登園に関しては仕事が休みであれば子どものために関わってほしいと思う。</p>
会長	<p>いろいろな方法で、いろいろな努力していただいてありがたい。</p> <p>典型的な親の姿が、子どもの様子から見える時代になった。親の都合のよいことが子どもに対するしわ寄せになっており、本質的に違う部分がある。また、親の未熟さも往々にしてありながら、親育ちが必要と考える。そのためのいろんな手を打って、できるだけ親育ちに向けた努力をしていただけたらありがたい。必要に応じて子どもに関する連絡を祖父母にも電話をしてくれることもいいと思う。家庭の事情もあり親子の関係が作れていることが前提となるので、そこは慎重に行いたい。</p> <p>幼児課における園児の出欠状況についてはどうか。</p>
委員	<p>出欠連絡が今はアプリになっており、そのことで園児は休みやすくなった。先生に休み連絡を入れることに苦慮していた保護者も、アプリ一つで済ますことができるようになった。</p> <p>アプリで確認はできるが、それで終わらず気になる家庭も含め「どうしたの？」と連絡を入れることで直接話すようにしている。アプリだけのつながりではなく、日頃の人間関係づくりが大事。アプリの活用方法については、今後も検討が必要である。</p> <p>にこまるルームでは、就学前児童も受け入れてくださっている。行き渋りが出てきたとき、発達の部分では心配だけど「大丈夫。」と言われたら、「どうしたらいいのか。」「どこに相談すればいいのか。」という事で困っている方がいる。</p> <p>何年か後に、不登校や行き渋り等により行けなくなるかもしれないと見通しがある場合、必要な関係機関へつなぐためにも、早めの相談をお願いしている。保護者さんも連携についてはすごく心強く思っておられるようで、非常にありがたいと思う。</p>
会長	<p>家庭での親子関係が一番大事である。第3者的な機関、相談できる場があることはいいと思う。自分の抱える悩みをどこに相談すべきかわからない保護者は非常に多い。いろいろ苦労はあるが、今後お願い</p>

委員	<p>したい。</p> <p>他の委員はどうか。</p> <p>就学前の子育て支援ということで、教育相談について市内子どもセンターと協力している。3年前からここ数年、やはり行動制限という部分があり、利用者を抑えていた。しかし行動制限が解除されてから、子育て支援センターのクレヨンも含め、利用者は1～2割増えている現状がある。子どもの相談だけでなく、親同士が触れ合える教室を持っている。子どもセンターや子育て支援センターなどで実施しているベビープログラムとして、「何月生まれの子」の需要もあり、一定数利用されている。5組以上12組以下という条件のもとで実施している。夏は猛暑の影響もあり、参加者が少なかった。12ヵ月で12回実施する方向で、夏場をずらして実施してはどうかと考えている。</p> <p>第3の居場所として富岡委員も実施されている子ども食堂にお願いしている。放課後児童クラブも本課で担当しているが、利用には親の就労条件が必要となる。本当にボランティアでやってくださっており、予算はまだ確定していないが、来年度はこのような居場所の回数を増やしていく方向で、今後支援させていただく形を変えようとしている。こども家庭庁の創設や法律が変わっていく中、子どもを中心にした形の事業において、関係各課との連携として進めていきたい。</p>
会長	<p>（子どもを中心とした）感覚で保護者への対応、また機会をあたえてもらっていること、ありがたいと思う。どうしても、赤ちゃんを生んだお母さんが悩みを抱え、私の思いを聞いてもらう場所がないと思ってしまう方が非常に多い時代になった。こういった人間関係の中で人数は少なくとも、開催する意義はある。親がどこに悩みを持っていくのか。「（悩みを）発散できて、行ってよかった。楽しかった。また行きたい。」そういった思いを持ってほしい。近江八幡市の中で子ども食堂の広がりも大きくなってきている。栄養が十分に摂れない子どもをいかに救っていくかということもかかっていることも含め、担当課で力をいれていただいている。幅広い活躍をお願いしたい。</p> <p>違った視点からとして、永峰委員は全体的にどう思われるか。幼稚園、小学校、中学校、高校といろいろな家庭の関係があるかと思うが、いろいろな家庭教育推進に関する活動を見ると、幅広い層で活動してもらっているように見える。何か感じられることがあったらお願いしたい。</p>

委員

団体として不登校・行き渋りの子どもへの支援、また一人親支援を行っている。また就労支援として、今年度4月からお弁当屋さんを始め、仕事体験をしてもらっている。コロナ禍の影響で、今の子どもはつながりの薄い世代、またインターネット世代となり、行き場を失っていると感じる。自分で居場所を見つけることが難しく、親が見つけて、連れてきてくれるといったケースが多い。いつもひと月に4名ほど来ており、お仕事体験を通して、人とのつながりを持っていく。高校退学した子、引きこもっている子などがほとんど。朝は行くと言っても来ないこともあるが、その中で「つながっている場所があることがありがたい」と話す子がいた。つながりがありがたいと言ってくれていることで十分ではないだろうか。活動の中で関わっている子たちは「人」だと思う。子どもたちをマルシェに連れていって、地域の方とつながろうと思っているが、私たちとなら行けるが、他の人とはいけないということもある。誰とかかわるか、が大事と感じる。

不登校の子どもを抱える親に関しては、はじめは（心に）鎧をつけて固く閉ざしている。ストライクゾーンが狭く、ちょっとずつ打ち解けながら広がっていった、いろいろな場所で優しくしゃべれるようになってくる。また、親は安心して話せる場所があまりないと感じている。なぜ不登校になったか親も子どももわからない、相談したいことがわからないなど、自分の考えをまとめてどのように伝えるかが難しい方もいる。安心ゾーンの狭さからその先に、安心して話せる人・居場所が必要だと感じている。私自身も子どもころ、誰か親の話を聞いてほしいと思っていた。誰かが聞いてくれることで、自分が安心できると思っていた。子どもの話も聞くが、それ以上に親の話を聞くようにしている。やることも大事だが、誰かが聞いてくれる、誰が関わるかがとても大事だと思っている。

他市の市長の「(不登校や引きこもりの子どもは) 親に原因がある」発言から、たいへんしんどい時期があった。親はもっともだと思っていて、100パーセントわかっている。しかし、その発言をきっかけに落ち込んだ人、少しずつ外へ出られるようになった子がまた引きこもってしまった。今、また出られるようにその対応に追われている。

個人的に通信制高校のサポートに携わっているが、1～3月は転校生が非常に多かった。公立の高校からというよりは、通信制高校から転校してくる子が多いのはなぜかと尋ねると、不登校等になった場合や行ってもうまくいかないなど、しんどくなった時の選択肢の少なさが大きな原因というところに、しんどい家庭が集まっているようにすごく感じる。

<p>会長</p>	<p>関わっている子どもたちの層の広さというか、それにより苦勞される面もあったかと思う。不登校や引きこもっている子どもたちにとって行ける場所の日程さえ用意しておくことで、その子たちの行動を見るということは、すごく大事だと思う。もちろん、こちらからおいでと言え言うほど来る子もいるが、引いてしまう子もいる。子どもたちにとって今よりも一歩前を向こうという勇気が、次の勇気に繋がるという点では、たいへんいいやり方かなと思う。</p> <p>他市の市長の発言の影響がこのような形であったとはと驚いている。そんな中、こうした活動を陰ひなたになって切磋琢磨やってくださっていることで響く親もいる。聞きたくないことも耳に入ってくることもあるが、一所懸命行動してくれている人がいることで救われることもある。そういったことを行政が認め、やってくださっている方々との連携を取り上げていく。それを市全体での支援としてできるといいなと思う。子育て相談は、口コミで広がってきてくれる。市内にも50人近く市民活動を展開されている方がいる。その方々が日の目を見て、市や行政の中で認められていくべきだと感じる。</p> <p>では、小学校の方ではどうか。</p>
<p>副会長</p>	<p>毎日朝は、昇降口のところで「おはよう」とあいさつをして子どもたちに声をかけている。全児童570人近くいるので、なかなか顔と名前が一致しない部分もあるが、気になる様子の子や名前と顔が一致する子などいろいろいるが、親がついて送ってこられる方、若い世代の父母、または下校時にお迎えに来てくれた方と、できるだけ話をしようと思っている。その中でちょっと声かけると、いろいろなことを話してくださる。校門に立っているのは、少しでも親が気持ちを出してもらう場になるのかなと思って、朝毎日続けている。担任ではないので、実際に保護者とつながることは難しく、自分自身がつながりを求めている部分もあるが、知り得た情報を担任に提供することもしながら、家庭の様子を垣間見ることができる。</p> <p>もう一つ感じるのは、人それぞれ考え方はちがうのだが、いろいろな情報の源がSNSを中心とすることに固執しがちであり、一つの情報そのものがすべてだと思っている。教師の方も、まずは親の考えを受け入れることも大事である。保護者がどういう思いをもっているのかを一旦受けて、そこから少しずつ前に進んでいくために、どんな風に教師の思いを伝えていくのか。教師自身の伝え方のスキルアップを図る必要があると感じる。教師の思いだけをストレートに伝えると、聞</p>

	<p>く側の保護者はしんどいと思うこともある。電話ではなく家庭訪問等で目を見て会って話すことも時として大事。本当に伝えたいのであれば、相手の表情を見て話すことも必要だと最近とても感じる。場合によっては言葉を変えつつ伝えることなど、相手に合わせてそういう伝え方や繋がり方ができたらいいなと思いながら、他の教師の様子を見て過ごしている。</p>
会長	<p>小学校の場合は、校長がストレートに保護者に伝える場面が少ないが、全体会やいろいろな会議の席などで、校長先生の広い視野を教職員に伝えて、そこからまた教職員への気付きにつながるような意識を高めていってもらえたらと感じる。</p> <p>遅くなったが、PTA連合会からはいかがか。</p>
委員	<p>市のPTA大会は10月に開催されたが、講演を聞くだけでなく本の読み聞かせやサイエンスショーなど、親子で一緒に見に行けるように催し物もさせていただいた。来場者にはとても喜んでもらえたが、周知方法が紙でしかできずチラシだけだったことで、宣伝効果が薄かったことが今回の反省点だと感じた。そして去年から市PTA大会への動員がなくなり、みんな自由に参加するようになり、そのことでものすごく多くの方が来なくなってしまった。今後、SNSを活用するといいいのではと先日話をしていた。</p> <p>個人的にあいさつ運動をしようと思っている。登降園のときやご近所の人、クラスがちがうお母さんなど、「おはようございます」と声をかけさせていただいた。毎日声をかけていると、園の環境整備作業時に話しかけられるようになった。普段声をかけていたので、その点はすごくよかったと思っている。</p>
会長から委員に質問	<p>10月は人数が少なかったとのことだが、1か月や1か月半前から学校にイベントのチラシを配布するときなどにPRはされたか。</p>
委員	<p>学校から各家庭に配付してもらった。チラシに今回QRコードでの応募をと考え、添付したことがうまく伝わらなかったのかもしれない。</p>
会長	<p>みんな絶対行った方がいいとわかっているけど、予定があつて行けなくなってしまう。興味がある人も同じかもしれない。そういった意味ではSNSを使って周知するのがいいかなと思うが、職員室前や廊下、昇降口にチラシを張り出すなどして、学校がある程度一所懸命になら</p>

委員	<p>ないと、子どもが興味をもって、親に「行こうよ」と言えない部分があるのではないか。</p> <p>チラシは学校から渡すも、行くのをやめるかチラシを捨てているかなど、約70パーセントの子が親に渡さないのではないかと。非常によい取組をされていると思うので、今回の反省を生かしていい結果につながるようにしてもらいたい。</p> <p>遅くなって申し訳ないが、中江委員はどうお考えか。</p> <p>直接子どもと関わっているわけではないが、最近の親は子どもに構いすぎではないかと感じることがある。以前に楠本委員の方から「しなやかに育てる」という学校生活の話をされた。そのことを聞いたことがきっかけで何度か校長室でお話しさせていただいた。そのことで気づいたことは、やはり子どもを地域の中に呼び寄せる、地域行事に参加させることについては校長次第かなと思う。</p> <p>11月に安土信長まつりがあり、今まで日曜開催だったのでなかなか参加してもらえなかった。そこで校長に生徒の引率含め参加依頼をしたところ60名の参加があった。その内約30名が武将役で出演してくれた。保護者も当然見に来られるのでたくさんの人に参加してもらえた。その前の8月12日には安土小運動場をお借りして夏祭りを企画し、校長通じて小学生全員来てほしいと依頼した。全校児童よりも多い約600名の参加があった。おそらく親戚の子どもや祖父母等と一緒にきていたと思われ、約3000人にもなった。どちらも校長通じて案内してもらったが、昔の思い出を子どもたちの記憶に残したらどうかということで、取組をさせてもらっている。スポーツフェスティバルでは親も一緒に出てもらおうようにして、参加者150名になった。</p> <p>祭りや運動会を通して、小学校・中学校と協働して子どもを地域に呼び出し、学区として取り組みをさせてもらった。PTAの方々もたくさんお手伝いに来てくださった。地域全体の活性化にもなり、お互いのつながりにもなった。</p> <p>ただ個人的には、「細かいことに構いすぎ」だと思う。</p> <p>ある某有名大学の大学生が地域づくりの研修に来た際に、大事な資料を送るので返信用封筒を書いて出してくださいと依頼した。そうすると大学生から「どこの住所を書いたらいいのですか」「封筒にどうやって貼るのですか」と質問された。「え？」と思うようなことがあった。日本は大丈夫かと思った。</p> <p>先日、市の新入職員30人くらいが地域に研修にきた。職員からの発</p>
----	--

	<p>表があったが今年も昨年と一緒に感じた。文の起承転結はあるもののワンパターンと感じたが、このままでいいのかなと思う。もう少したくましく子どもを育てることができないかと思う。</p> <p>冬でも半袖を着て過ごす子があってもいいのではないだろうか。今の時代、保護者の管理責任は大丈夫かとなってしまう話になるが、子どもに構い過ぎだと思う。</p>
会長	<p>まちづくり協議会ならではの力だと思う。昨今、学校行事において地域の子ども会役員も厳しくなっている。予算の関係で行事の取り止めや行事をこなすだけになり、多ければ減らすなど単純化になり、視野が狭くなってきていると感じる。</p> <p>そう思うと、地域の底力はすごいと思う。まちづくり協議会が綱を引いてくださったら、みんなでやろうとなり、力の発揮どころではないか。地域・学校含めやろうと思えばできるということ。子どもたちが経験する場所・育つ場所ない。親が成長していく相応しい場所がない中で、偏った中ではあるが学校でできなかったら地域でできるという発想が大事。</p> <p>それぞれのお立場で、頑張ってもらいたと思う。みなさんの忌憚のない意見がありがたい。これが今後の生涯学習課での活動に大きなプラスになる。</p> <p>今日はいろいろと皆様からお時間いただき、意見を聞かせていただいた。</p>
事務局	<p>事務局からの連絡</p> <p>3月5日にひまわり館にて子育てサロンを実施する。また、家庭教育支援員連絡会を3月中旬から下旬にかけて実施予定である。</p> <p>これにて第2回家庭教育支援推進協議会を終了する。</p> <p>閉会にあたり、副会長よりごあいさつをお願いしたい。</p>
副会長	<p>《閉会の挨拶》</p> <p>他の委員のお話が本当にその通りだと思い、心に響き共感した。</p> <p>先日17日に学区の平和記念式典に平和学習のまとめとして、平和の誓いに6年生が数名参加した。また文化祭では子どもたちがお店を手伝い、ポップコーン売りをしたり、学区周辺でのマラソン大会では、職員とともに応援したりした。その中で子どもたちが育つポイントがあるかなと感じた。構い過ぎないことは確かにその通りだと思う。保護者にも理解してもらえるように、今後も発信していきたい。</p>

<p>会長</p>	<p>また、個人的に感じていることで、学校での性教育は子どもを対象としているが、家庭がやる性教育の啓発も来年くらいには発信していきたいと考えている。大人も含めて命の大事さ学べる場をみんなで考え、これからも作っていきたいと考える。</p> <p>先程の大学生の話だが、幼少期から家のお手伝いや親から任された経験の少なさからきているのではないか。何気ない経験が大人になってつながってくる。ゲームや映像を見せておいて放っておくのではなく、子育てを通して子どもに様々な経験をさせること、家庭での正しいしつけ教育が重視される世の中になってほしいと願う。</p> <p>8 閉会</p>
-----------	---

担当課⇒総務課